

エコアクション21

# 環境経営レポート



2020年度版（2020年4月～2021年3月）

## 三兼商事株式会社

作成 2021年4月12日

# 会社概要

- (1)社名 : 三兼商事株式会社
- (2)代表者 : 代表取締役社長 小田 晴道
- (3)所在地 : 〒652-0807 神戸市兵庫区浜崎通 3-21 三兼ビル
- (4)設立 : 1957年5月2日
- (5)環境管理責任者 : 取締役営業統括部長 南 孝幸  
担当連絡先 : 総務部 係長 米田 真也  
TEL:078-651-2111  
FAX:078-652-2435
- (6)事業の規模  
事業内容 : 船用機器・建設機械用機器・発電所向け機器・水処理施設用  
機器・一般産業機械用機器の販売  
資本金 : 24,000 千円  
従業員数 : 22 名  
床面積 : 839.17 m<sup>2</sup>  
売上高 : 23 億円 (2020 年度実績)
- (7)認証・登録の対象範囲  
登録組織名 : 三兼商事株式会社  
対象事業所 : 本社・全組織  
対象活動 : 全活動
- (8)レポートの対象期間 : 2020年4月～2021年3月  
発行日 : 2021年4月12日

# 環境経営方針

## [ご挨拶]

三兼商事株式会社は1957年創業以来、主要取引先である三菱重工業株式会社様から絶大なる信頼とご支援を賜りながら堅実な経営を営んで参りました。

昨今では、環境負荷低減を目的とした機械装置の販売にも従事しており、環境問題と向き合う企業理念が今後の重要な課題であると考えます。

そこで満50年を迎え、更なるグローバル化の一環として環境に配慮した経営を目指し、環境マネジメント認証を取得しました。

地球環境に優しい商社として新たな一步を踏み出し、以下の通り環境マネジメントに取り組み、環境経営の継続的改善を実施致します。

## [基本理念]

当社は環境保全を経営の重要課題のひとつと考え、事業活動を通じて従業員一丸となって環境保全に取り組み、豊かな社会の実現に貢献します。

## [行動指針]

- 1.環境負荷軽減の為にCO2排出量の抑制・廃棄物の削減及び有効利用・水使用量の削減を重点的に推進します。
- 2.教育・訓練等の実施により従業員に環境方針並びに環境保全の重要性を周知徹底します。
- 3.環境関連法規及び当社が同意した各種協定を遵守します。
- 4.環境負荷を軽減させる資材の利用、製品の販売を促進します。
- 5.グリーン購入に積極的に取り組みます。

2009年4月1日 策定

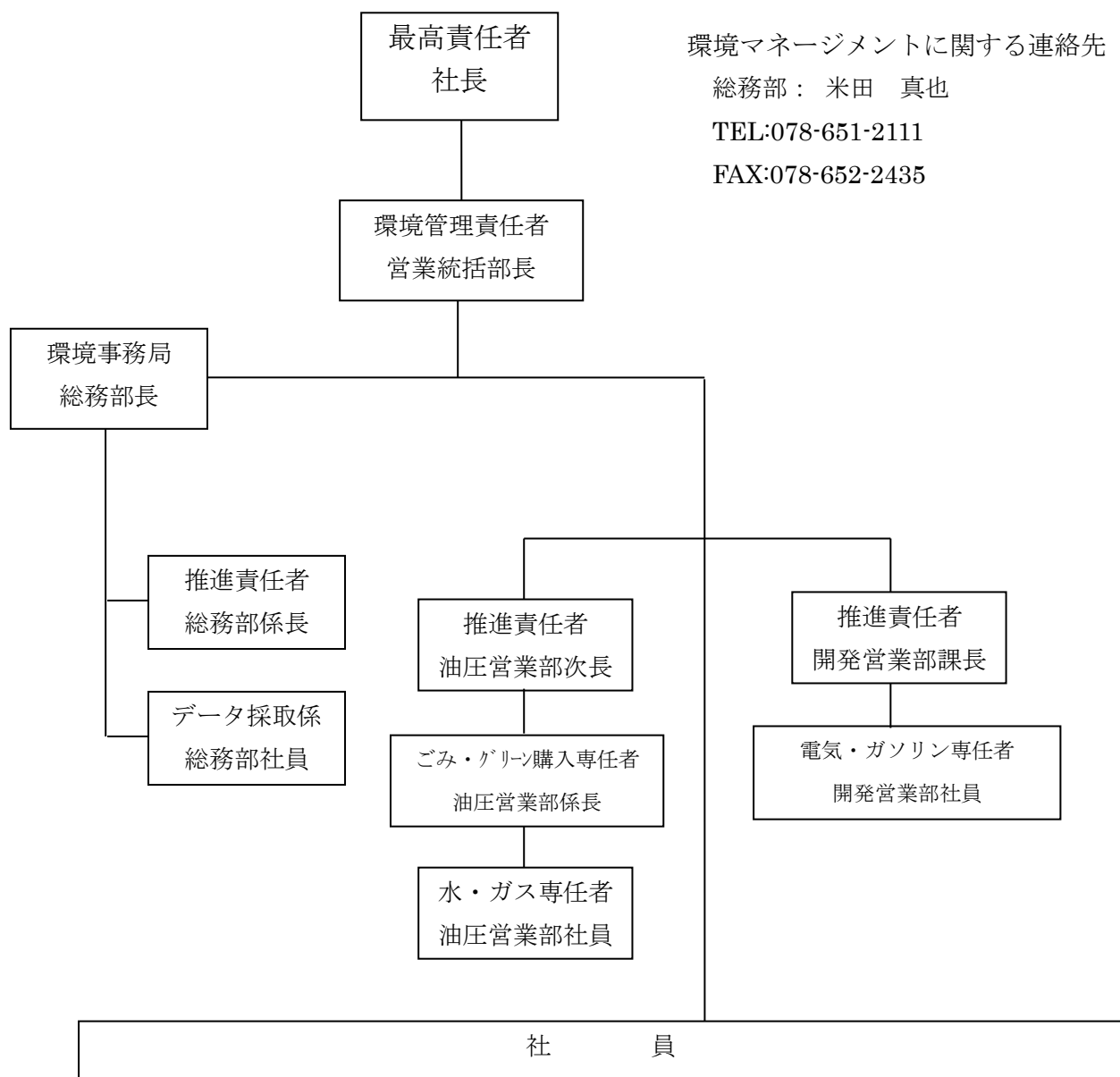
2018年4月6日 改定

三兼商事株式会社

代表取締役社長 小田 晴道

# 環境マネジメント組織と役割

## <会社組織と環境マネジメント組織>



## <環境マネジメント役割分担>

最高責任者	環境方針の策定、全体の評価と見直し、環境目標及び活動方針の承認
環境管理責任者	実績の評価と見直し、環境目標の設定、活動計画の策定
環境事務局	環境マネジメントにおける外部窓口
推進責任者	システムの確立、実施、環境目標の推進と実績の把握と報告・改善案に基づいた活動内容の立案
専任者	担当項目の問題点集約と改善案立案・担当項目の推進
データ採取係	各項目のデータ採取

# 環境経営目標

## ①中期計画(2018年度～2020年度)

2018年度に制定した『環境目標 中期計画』は、最終年度となった。以下に結果をまとめる。

### 【中期計画(2018年度～2020年度)の結果】

- 電力・ガス・車両燃料・水・ゴミは2015～2017年度実績の最小値を目標とする。
- グリーン購入は件数を維持する。
- 環境機器類取扱品目の件数は、毎年1件の増加とする。

項目	単位	基準値	2018年度		2019年度		2020年度		
			実績		実績		実績(短時間)		
CO2排出量	kg - CO2	36,694	36,753	×	36,288	○	30,740	○	
電力	kWh	55,353	57,746	×	57,684	×	49,841	○	
ガス	m <sup>3</sup>	87	79	○	76	○	72	○	
燃料	L	5,758	5,360	○	5,169	○	4,190	○	
燃費	km/L	18.4	18.3	×	18.4	○	18.3	×	
水	m <sup>3</sup>	228	218	○	223	○	190	○	
ゴミ	可燃	kg	658	595	○	782	×	621	○
	資源	kg	200	185	○	226	×	74	○
グリーン購入	件	15	15	○	15	○	15	○	
環境機器取扱品目	件	2	3	○	4	○	5	○	

・電力の二酸化炭素排出係数は、2018年度より関西電力の2017年度係数『0.418kg-CO2/kWh(調整後)』(2018年12月27日公表)を採用している。

※ 基準値に対して、実績が達成の場合は『○』、未達成の場合は『×』

※ 2020年度は、1年を通してコロナ対策として時差出勤(10時～17時)を行っており、通常勤務(9時～17時20分)よりも短時間勤務となっている。

※ 燃料は『ガソリン』と『軽油』の合計量を記載している。  
(ガソリンは社用車、軽油はレンタカーのみで使用)

※ 燃費は社用車の走行距離を『ガソリン』のリッター量で割って算出している。

<概要>

中期計画の実績値は、3年通して概ね基準値以下に抑えることができた。但し、2020年度については、1年を通してコロナ対策として時差出勤(10時～17時)を行っており、通常勤務(9時～17時20分)よりも短時間勤務であった。勤務時間が 7時間20分 ⇒ 6時間と短くなったことで、例年よりも大幅に環境負荷が減少している。(2019年度と比較して、各項目15～20%減)

次に各項目を精査する。基準値を達成出来なかった負荷項目は、『電力』である。2018・2019年度共に未達成である。電力の基準値として挙げている55,353kwhは2015年度の実績値である。2015年は冷夏だったこともあり、夏場のエアコンの消費電力が抑えられたと考えられる。また、2018年の夏は記録的高温(夏場の平均気温が1946年統計開始以来、最高)、2019年は7,8月は落ち着いていたが、9月に猛暑となった。よって、2015年と比較して、2018年・2019年は夏場のエアコン消費電力が上がったことで、全体的な消費電力が増大したと考えられる。

(各年の電力比較は、参考資料① 9ページ 電力消費量比較グラフを参照)

(気候の情報は、気象庁HP 報道発表資料より取得 <https://www.jma.go.jp/jma/press/hodo.html>)

②2020年度活動内容と結果

<2020年度実績>

(2020年4月1日～2021年3月31日)

項目	目標	実績	前年度比	達成度	
電力使用量 (CO2換算値)	55,353kWh	49,841kWh (20,834kg-CO2)	-7,843kWh (-13.6%)	A	
ガス使用量 (CO2換算値)	87 m <sup>3</sup>	72 m <sup>3</sup> (152kg-CO2)	-4 m <sup>3</sup> (-5.3%)	A	
車両燃料使用量 (CO2換算値)	5,758L	4,190L (9,754kg-CO2)	-979L (-18.9%)	A	
二酸化炭素量 (上記3件合計)	36,694kg-CO2	30,740kg-CO2	-5,548kg-CO2 (-15.3%)	A	
燃費	18.4km/L	18.3km/L	-0.1km/L (-0.5%)	B	
水使用量	228 m <sup>3</sup>	190 m <sup>3</sup>	-33 m <sup>3</sup> (-14.8%)	A	
ゴミ類	可燃ゴミ	658kg	621kg	-161kg (-20.6%)	A
	資源ゴミ	200kg	74kg	-152kg (-67.3%)	A
グリーン購入	15件	15件	—	A	
環境機器取扱品目数	5件	5件	+1件	A	

(達成度) A:よくできた B:まずまずできた C:あまりできなかった D:全くできなかった

<2020 年度活動内容と評価>

項目	活動内容	評価
電力使用量の削減	エアコンの温度管理 夏季 26℃ / 冬季 23℃ 不要箇所の消灯 外出時、パソコンを切る	2020 年 4 月よりコロナ対策として、時差出勤を導入し、就業時間が短くなっている。 また、来客も減少しているため、客室の使用回数も減っている。 以上より、全体的な電力使用量が減少したと考えられる。
ガス使用量の削減	ガス給湯器の使用頻度削減	今年度もガス給湯器の使用を最小限に抑えられた。
車両燃料の適正使用	エコドライブの奨励 計画走行の充実	急発進・急加速の禁止、アイドリング減少、タイヤ圧管理、計画走行により燃料削減を達成できた。 また、コロナ禍の影響により営業へ出る回数が減少し、車両の使用回数が減った。
水使用量の削減	節水奨励	電力使用量と同様の理由で減ったと考えられる。
ゴミの削減	裏紙使用の徹底 ゴミ排出量低減活動	可燃ゴミ・資源ゴミ共に前年度より減少した。 資源ゴミについては、ダンボール・本・カタログ類の廃棄が大幅に減少した。
グリーン購入	主体をグリーンマーク事務用品関係とし、再生紙採用のファイル類、フォルダー等 再生材採用のテープ、消しゴム等具体的品目を選び対応	予算内で可能な対象を選び、目標を達成できた。 今後も用紙・プリントインキ等対象を広げ検討する。
環境機器取扱品目数	環境負荷低減商材への積極的な営業参画	船舶用ポンプ・消防車用部品・水力発電用水車部品・火力発電所用部品・船舶エンジン用部品の販売実績あり。

④次中期計画(2021~2023 年度)及び 2021 年度活動計画

中期計画(2018~2020 年度)の結果より、次中期計画(2021~2023 年度)を以下のように定める。なお、2020 年度実績に関しては、前述のように短時間勤務での実績なので除外し、2018・2019 年度のデータを元に中期計画を決定する。

- ・電力 ⇒ 未達成のため、前中期計画の基準値を継続する。
- ・ガス・燃料・燃費・水・ゴミ ⇒ 2018 年・2019 年実績の最小値を基準値として挙げる。

また、2018 年度より環境経営目標に『環境性能に優れた機器類の取扱品目の拡大』を挙げていたが、当中期計画から『環境負荷低減製品の提案・販売』へ変更する。以前は取扱品目を毎年 1 件追加することを目標としていたが、当中期計画からは『1 件以上の販売実績』を目標とする。

<中期計画(2021~2023 年度)>

項目	単位	基準値	2021 年度	2022 年度	2023 年度
			目標	目標	目標
CO2 排出量	kg - CO2	29,778	29,778	29,778	29,778
電力	kWh	55,353	55,353	55,353	55,353
ガス	m <sup>3</sup>	76	76	76	76
燃料	L	5,169	5,169	5,169	5,169
燃費	km/L	18.4	18.4	18.4	18.4
水	m <sup>3</sup>	218	218	218	218
ゴミ	可燃	kg	595	595	595
	資源	kg	185	185	185
グリーン購入	件	15	15	15	15
環境負荷低減製品	件	1 件以上	1 件以上	1 件以上	1 件以上

・電力の二酸化炭素排出係数は、2021 年度より関西電力の 2019 年度係数『0.318kg-CO2/kWh(調整後)』(2021 年 1 月 2 日公表)を採用している。

※ 燃料は『ガソリン』と『軽油』の合計量を記載している。

(ガソリンは社用車、軽油はレンタカーのみで使用)

※ 燃費は社用車の走行距離を『ガソリン』のリッター量で割って算出している。

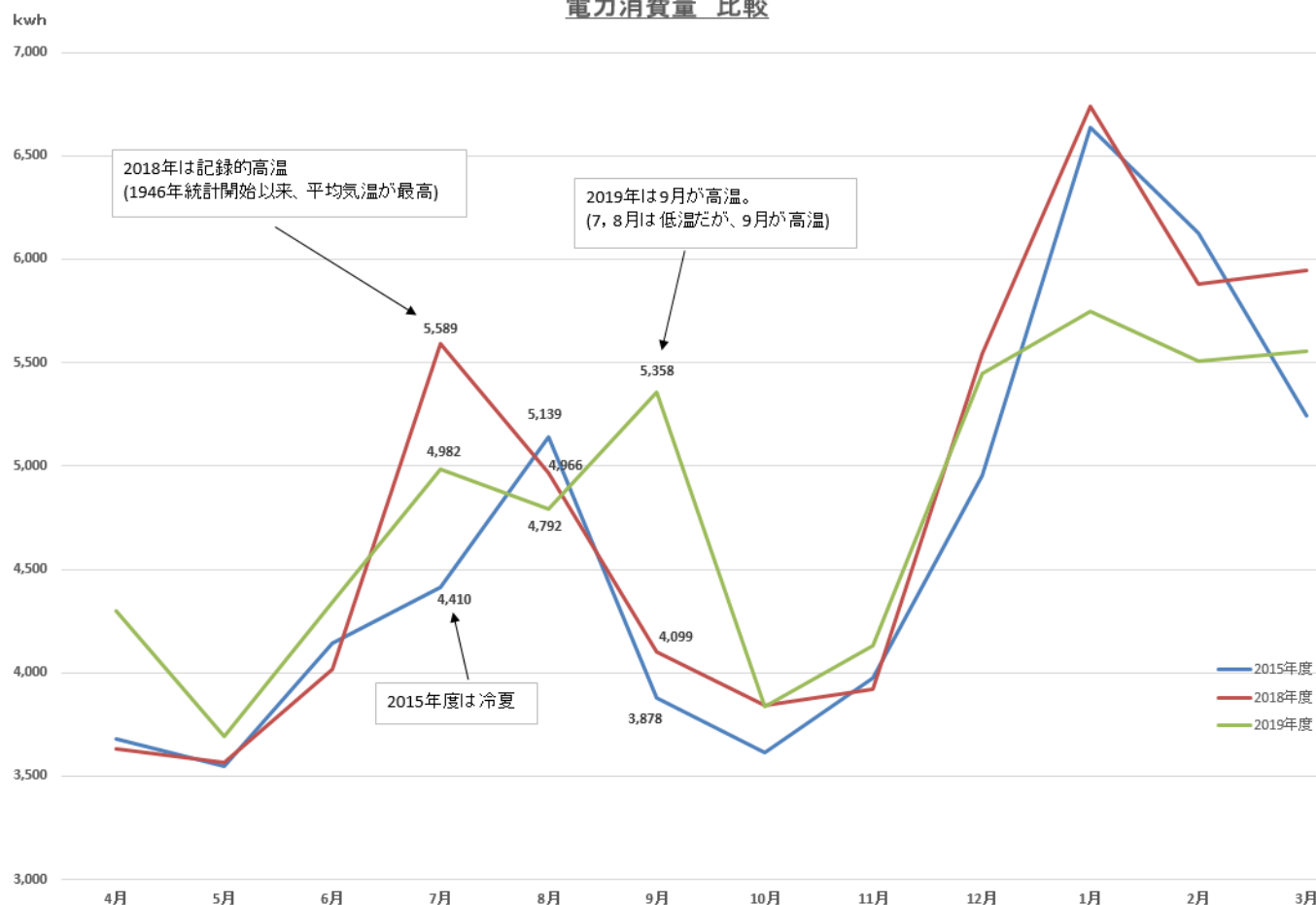


<2021 年度活動計画>

項目	目標値	活動計画	担当者
電気使用量の削減	55,353kWh	①エアコンの温度設定管理 冷房 26℃/暖房 23℃ 室内温度：夏季 28℃以上/冬季 20℃以下のみ使用 ②不要箇所の消灯、ブラインドを開ける ③外出時にパソコンを切る ④古い設備機器(エアコン・LED)の順次入替え	大村
ガス使用量の削減	76 m <sup>3</sup>	ガス給湯器の使用を控える	松本拓
車両燃料の適正使用	使用量 5,169L 燃費:18.4Km/L	①エコドライブの奨励 法定速度遵守/急発進・急加速の禁止 ②計画運行の奨励 ③アイドリングストップの奨励	大村
CO2 排出量(上記 3 件換算)	29,778kg-CO2	—	—
水道使用量の削減	218 m <sup>3</sup>	節水奨励	松本拓
ゴミの削減	可燃：595kg 資源：185kg	①裏紙使用の徹底 裏紙専用プリンターの設置 ②ゴミ排出量低減活動(ビニール袋をもらわない等)	高野
グリーン購入	15 件	①対象の見直し (従来はグリーンマーク商品のみを対象としていたが、 リサイクル商品も対象に含める) 全体として 15 件対象を選定 (会社案内も継続して対応)	高野
環境負荷低減製品の提案 ・販売	販売実績 1 件以上	環境負荷低減効果のある製品の販売を推進する。 各メーカーが開発した省エネ製品・環境負荷低減製 品の新製品の拡販を重点的に計画する。	南

## (参考資料 ①)

### 電力消費量 比較



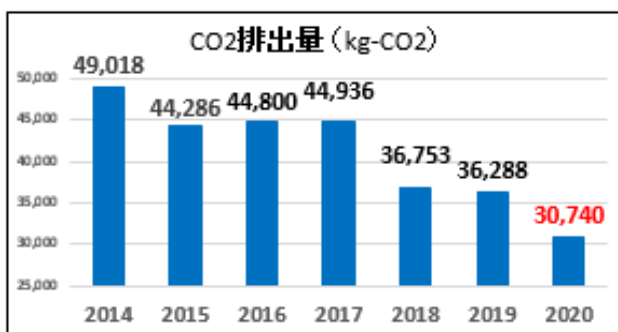
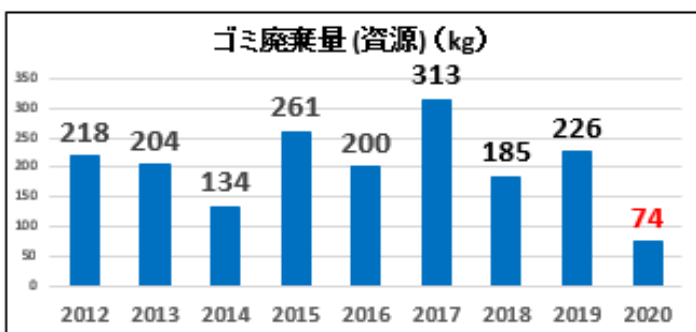
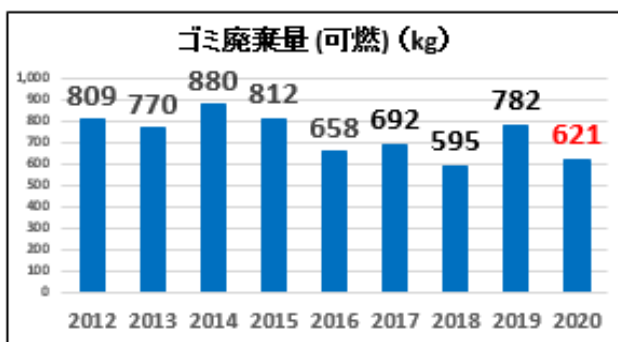
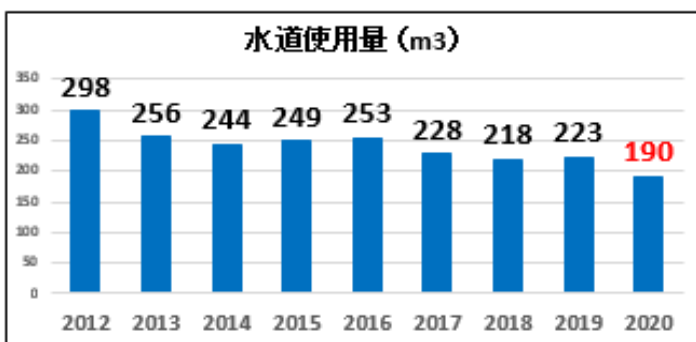
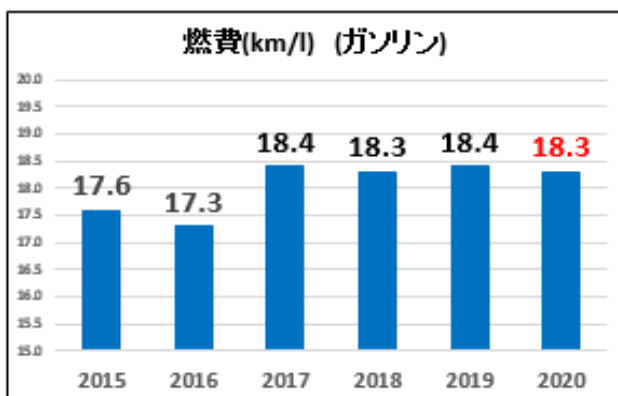
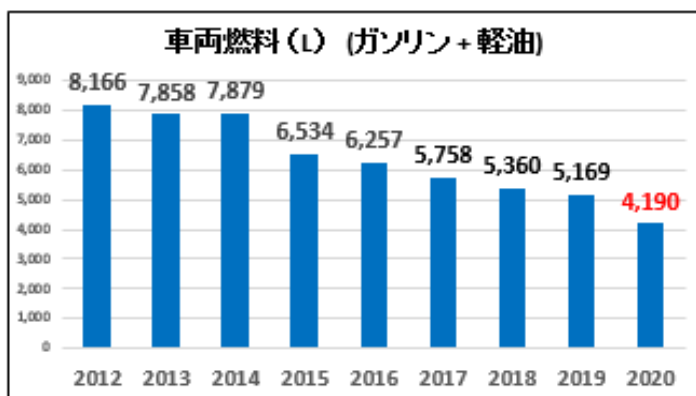
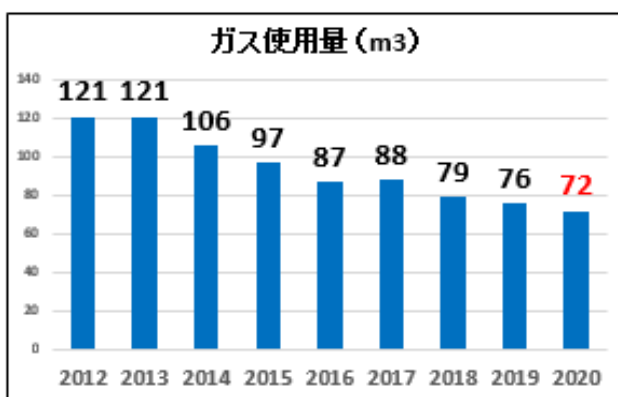
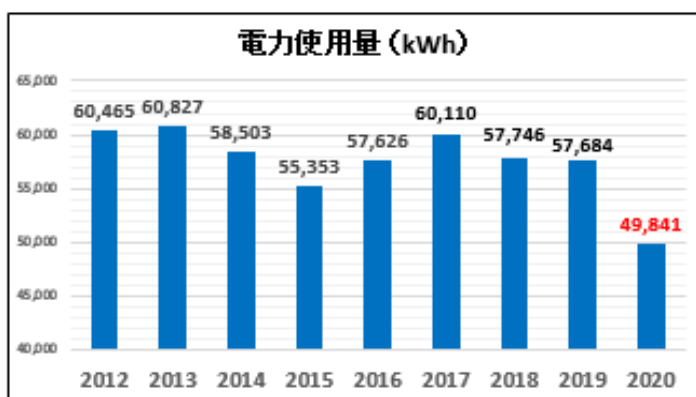
### ※ 電力消費量の比較 (2015・2018・2019年 各月のグラフ)

- ・2015年(青グラフ) ⇒ 冷夏 7月の電力消費量が4,410kwhと少ない。  
(7～9月電力合計 13,427kwh)
- ・2018年(赤グラフ) ⇒ 記録的高温 7月の電力消費量が5,589kwhと3年で最高値  
(7～9月電力合計 14,433wh)
- ・2019年(緑グラフ) ⇒ 9月が高温 9月の電力消費量が5,358kwhと3年で最高値  
(7～9月電力合計 15,132kwh)

夏場の電力消費量を比較すると、他の季節よりも各年のグラフで大きな差がある。オフィス内での電力消費は『エアコン・照明・コンセント(PC等機器)]の3つが大きな割合を占めている。この3つの中で、気温によって電力消費量が大きく変化するの、エアコンである。

(参考資料 ②)

環境目標 実績値推移 (2012~2020年度)



※CO2 排出量係数

2014~2017 年度

2013 年度係数『0.522 kg-CO2(調整後)』を採用

2018~2020 年度

2017 年度係数『0.418kg-CO2/kWh(調整後)』を採用

# 環境関連法規制等の取りまとめ

## (兼遵守状況の確認)

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていることを確認しました。過去3年間に法令違反及び公的機関からの指導はありません。

また同じく近隣等からの要求、訴訟はありませんでした。

法規名	公布	改正	適用条項	要求事項または内容	遵守状況	確認日
神戸市民の環境をまもる条例	H6.3.31	H9.3.31	5条-1・2・3・6 30条 46条	環境負荷低減の積極的な取組 学習の実施 地球環境保全への取組	○	4月3日
神戸市廃棄物の適正処理、再利用及び環境美化に関する条例	H5.3.31	H28.10.1	5条	廃棄物の適正処理	○	4月3日
フロン排出抑制法	H27.4.1	R.2.4.1	16条～26条	業務用エアコンの簡易点検	○	4月3日
消防法	S23.7.24	R1.7.1	17条の3の3	消防設備等の定期点検	○	4月3日
自動車NOx・PM法	H.4.6.3	H23.8.30	1条 4条	自動車排出窒素酸化物等の排出の抑制	○	4月3日
自動車リサイクル法	H.14.7.12	R1.6.14	1条 5条 8条	長期使用の推進と適正廃却の義務	○	4月3日
家電リサイクル法	H.10.6.5	H29.6.16	6条	長期使用の推進と適正廃却の義務	○	4月3日

※ 上記の法律に関しては、法令データ提供システム(総務省 HP)にて、最新の法改正について随時確認を行っている。

法令データ提供システム ⇒ <http://law.e-gov.go.jp/cgi-bin/idxsearch.cgi>

## 代表者による全体の評価と見直し・指示

### (評価)

(各項目の前年比)

- ① 電気使用量 ⇒ 13.6%減
- ② ガスの使用量 ⇒ 5.3%減
- ③ 車両燃料 ⇒ 18.9%減、燃費はほぼ同じ。
- ④ 水道使用量 ⇒ 14.8%減
- ⑤ ごみ廃棄量 ⇒ 可燃ごみ 20.6%減、資源ごみ 67.3%減
- ⑥ 環境機器の取扱件数 ⇒ 1件増加

### (見直し・指示)

昨年度に引き続き、2020年度も概ねすべての環境経営目標を達成することができた。しかしながら、前述のように2020年度はコロナ対策として時差出勤を行っており、勤務時間が7時間20分から6時間へ短時間になった結果、各環境負荷項目が減ったと考えられる。今後、通常勤務へ戻った場合、各環境負荷が例年通りの実績へと戻ると予想される。その場合でも基準値を達成できるよう、環境負荷削減活動を推進することが重要である。⑥の環境機器の取扱件数に関しては、船舶用ポンプ・消防車用部品・水力発電用水車部品・火力発電所用部品・船舶エンジン用部品の計5件の実績があった。(次ページに機器詳細を記載)

また、2018年度より環境経営目標に『環境性能に優れた機器類の取扱品目の拡大』を挙げていたが、2021年度より『環境負荷低減製品の提案・販売』へ変更する。以前は取扱品目を毎年1件追加することを目標としていたが、2021年度からは『1件以上の販売実績』を目標とする。

(環境機器の概要)

1. 船舶用ポンプ ⇒ SO<sub>x</sub> 排出量を削減する効果のあるスクラバー装置に内蔵されているポンプ。  
スクラバー装置とは、船舶が出す排ガスに含まれる SO<sub>x</sub>(硫黄酸化物)を中和し、排ガスを浄化する装置である。SO<sub>x</sub> 排出量を削減することにより、環境負荷低減の効果がある。  
年間取引額 = 2,000 万円
  
2. 消防車用部品 ⇒ アルミ製の自動車部品。  
鉄製からアルミ製へ部品の材質転化により、車体重量の軽量化が可能となった。軽量化による燃費アップ及び CO<sub>2</sub> 削減の効果がある。  
年間取引額 = 200 万円
  
3. 水力発電用水車部品 ⇒ 水力発電機の中にある樹脂製の軸受。  
従来の金属製軸受と比べ、軸受の損失が低減しており、発電効率がアップしている。また、金属製軸受と違って潤滑油を使用していないので、潤滑油流出による近隣河川の汚染がない。  
年間取引額 = 100 万円
  
4. 火力発電所用機器類 ⇒ 発電プラントのバルブ本体・バルブ部品・特殊リング。  
スチームタービン・ガスタービンを組み合わせたコンバインド発電に使用されている部品である。コンバインド発電は従来の石炭焚きの火力発電と比べ、発電効率が 20%アップし、CO<sub>2</sub> は 50%削減の効果がある。  
年間取引額 = 4 億円
  
5. 船舶エンジン用部品 ⇒ 船用エンジン用ピストンリング  
2010 年以降に電子制御により必要最低限の燃料でエンジンを運転出来る高効率エンジンが開発された。燃焼効率が上がった為、排ガスの低減効果が認められる。  
当社は上記 Eco エンジン (Electronically controlled Engine) の内蔵部品であるピストンシリンダー用ピストンリングを供給しており、間接的に環境対策に寄与している。  
年間取引額 = 1 億 5000 万円

上記のいずれも環境負荷低減に効果がある。また、取引額の面からも当社の経営に大きな影響を与えている。今後も環境経営を継続し、環境負荷の少ない新製品の拡販や環境関連の案件への積極的な営業活動を行って、活動範囲を拡大してゆく。

以上

2021 年 4 月 12 日  
代表取締役社長 小田 晴道